



民俗芸能を通して「東北」の魅力を紹介

東北は民俗芸能の宝庫。湧水神楽（岩手県遠野市）、黒森神楽（岩手県宮古市）、白澤鹿子踊（岩手県上閉伊郡大槌町）の3つのグループと、和太鼓ほかジャンルを超えた音楽家達からなる鬼太鼓座& Musiciansによる東北の民俗芸能を紹介する公演を、米国、フランス、中国の3カ国8都市で展開した。写真上は白澤鹿子踊（中国・広州）、下左は黒森神楽（フランス・パリのリセ・インターナショナル・サンジェルマン・アン・レー校）、下右は湧水神楽（アメリカ・ロサンゼルス）の各公演

国際交流基金の東日本大震災復興に関する取り組み

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心とする広い範囲に甚大な被害をもたらしました。あれから1年以上の月日が経っても、被災地では未だに行方不明者の捜索が続き、仮設住宅での暮らしを余儀なくされている人が大勢います。あらためて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

国際交流基金は、国際社会へ向かって、東北地方が本来もつ豊穡さ、コミュニティにおける人間の絆の強さといった魅力を紹介するとともに、世界中から日本に寄せられた

温かい支援に対する日本人の感謝の気持ちを表し、あわせて日本の復興への決意を伝えるために、世界各地で舞台公演、展覧会、映画・ドキュメンタリーの上映会などの文化事業、これまでに培ってきた人的ネットワークや災害復興・防災に関する事業の実績とノウハウを生かした講演会やシンポジウム、対話事業などを行いました。震災を契機に、海外では日本人の精神や日本社会を支える文化の力が注目されています。国際交流基金はこれからも日本の魅力を発信し、被災経験を海外の人達と共有し、被災地をはじめ日本と海外の交流を促進することにより、復興に貢献していきます。



地球市民賞・理事長特別賞を3団体に

国際文化交流のモデルとなる活動を行う団体を表彰する「地球市民賞」選考にあたり、国際文化交流を通じた復興支援を行う3団体、陸前高田市国際交流協会(岩手県)、国際交流協会 ともだちin名取(宮城県)、ザ・ピープル(福島県)に理事長特別賞が贈呈された



米国の子ども達の「元気メール」を携えて

米国の若手ジャーナリスト達が、全米の小学生達から被災地の子ども達に向けてのメッセージを携えて来日。被災地に応援のメッセージ届けるとともに、現地を実際に見て、災害に遭った人達の生の声を聞く機会もあった 撮影:相川健一



震災、東北に関する映画、ドキュメンタリー上映

あるがままの東北と、災害を克服する日本人が描いた映像作品を、86カ国138都市で上映。「映画を観て日本に行きたくなった」など多くの反響があった



災害に立ち向かう建築家の提案

震災後、建築家達はいち早く現場に入り災害に向き合った。建築家達の復旧活動のあり方と復興にむけての提案を紹介する展覧会をパリ日本文化会館で行った



日米の架け橋となる高校生達

東北でJET外国語指導助手として活躍中に震災の犠牲となった2名のアメリカ人青年を讃え、米国の高校生が来日。東北訪問や関西国際センターでの研修を行った



写真展「東北一風土・人・暮らし」

農村の暮らし、民俗儀礼や祭り、自然など、異なる視点から描いた、東北にゆかりのある写真家10組の作品による展覧会を北京で開催。2千人を超える来場者が訪れた



世界各地で追悼の祈り

東日本大震災の犠牲者を悼むインド・ニューデリーの若者。震災から丸1年目にあたる2012年3月11日には、世界各地で追悼行事が多数行われた 撮影:iaki



鎮魂の花火を世界の人達と

2011年8月、10カ所の被災地で、犠牲者の鎮魂と復興への願いを込め一斉に花火を打ち上げる「LIGHT UP NIPPON」が開催された。復興に取り組む日本の若者のリアルな一面を海外へ伝えることを目的に、国際交流基金はイベント実現までを追ったドキュメンタリーを制作し、14カ国16都市で、22回の上映会を開催した 撮影:相川健一